

極秘

第松五號

征清海戰史 卷十 (黃海海戰)

本書ハ極メテ秘密ヲ要スヘキモノナルヲ以テ他ノ閱覽ヲ禁ス

尾木大佐ヨリ

0683

征清海戰史稿本卷十

海軍軍令部戰史編纂委員 編

第八編 黃海海戰

第十五章 黃海戰紀

伊東聯合艦隊司令官
軍艦八重山
ヲシテ陸軍
運送船ヲ仁
川港ニ導カ
シム

伊東司令官
官坪井司令
官ヲシテ威
海衛港及シ
ヨバイオ
ール島附近
ヲ偵察セシ
ム

九月十二日。聯合艦隊司令官海軍中將伊東祐亨ハ。朝鮮國忠清道ノ西岸ナルベーカー島附近ニ於テ。長直路（遠征根據地長直路ノ防禦ニ詳ナリ）ヨリ護送シ來レル陸軍運送船二十七隻ヲ軍艦八重山ニ命シテ仁川港ニ導カシメタル後。敵ノ艦隊偵察ノ爲メ。第一游擊隊中ノ軍艦吉野及高千穂ヲ清國山東省威海衛軍港ニ。軍艦秋津洲ヲ朝鮮國忠清道ノ北西岸ナルシヨバイオール島附近ニ派遣セント欲シ。常備艦隊司令官海軍少將坪井航三ニ左ノ命令ヲ與フ。曰ク。

直ニ大同江ニ進ムコハ。山縣軍司令官ト協議ノ末。更ニ第五師團ノ戰況報告ヲ得ル迄見合スコトナレリ。其間艦隊ハ專ラ第三師團ノ

伊東司令長官、餅原水雷艇隊司令ヲシテ豊島附近ヲ偵察セシム

帝國艦隊カリロリン灣錨地ニ碇泊ス

上陸ヲ安全ニセシメン爲メ。當附近ニ在、テ警戒ス。

貴官ハ高千穂ヲ率井テ威海衛偵察ニ赴キ。本隊ニ歸リ報告スヘシ。

本隊ハカリロリン灣ノ西方ニ假泊ス。又秋津洲ハシヨパイオール島

附近ニ在、テ偵察ニ任シ。浪速ハ本隊ト共ニ假泊場ニ來ラシムヘシ。

又水雷艇ヲ以テ偵察兼警戒ノ任ニ當ラシメント欲シ。水雷艇隊司令

海軍少佐餅原平二ニ命令ヲ授ケテ曰ク。

貴官ハ艇隊ヲ分チ。一隊ハ豊島ニ。他ノ一隊ハ飛魚水道ニ在、テ偵察

及警戒ノ任ニ當ルヘシ。若シ海門仁川ヨリ報知ヲ齎ラシ來ル序ニ。

カリロリン灣外ニ本隊來ルヲ聞カハ。同艦ト共ニ來ルヘシ。

是ニ於テ各艦艇直ニ指定ノ地ニ向、テ航進ス。踵テ第三游撃隊ヲカリ

リン灣ノ西ニ向ハシメ。而ソ後本隊ハ陣形ヲ整ヘ。附屬艦及運送船ト

俱ニ同灣錨地ニ向ヒ發ス。午後二時。灣ノ西ニ至リ。各艦二列ニ碇泊ス。

其方向ハ南西 $\frac{3}{4}$ 西ニシテ。列ノ間隔ハ四百米突。又嚮導艦ノ方位ハ南

0685

小川軍參謀
長海軍ノ陸
軍應援ニ對
シ山縣軍司
令官ノ命ヲ
受ケ來ル

山縣軍司令
官海軍ノ應
援ヲ望ム

東ノ南ト定メ。各艦石炭及飲料水ノ積入レヲ爲ス。翌十三日午後。軍艦海門仁川ヨリ歸着ス。軍參謀長陸軍少將小川又次。軍司令官陸軍大將伯爵山縣有朋ノ命ヲ受ケテ之ニ便乗シ來テ。我海軍ノ陸軍應援ニ對シ述フル所アリ。其大意左ノ如シ。

陸軍ノ戰況ニ就テハ未タ確報ヲ得サルヲ以テ。當時何レノ所マテ進軍シアルヤ知ルニ由ナシ。從テ何日頃大同江ニ達スルヤ今斷言スル能ハスト雖也。其大同江ニ着スルモ遠キニアラサルヘキヲ以テ。海軍ノ應援ハ切ニ希望スル所ナリ。其時日ノ如キハ確報ヲ得次第。直ニ報知スヘキニ付。夫レ迄ハ此地ニ待タレンヲ望ム云々。

伊東司令長官ハ再々海門ヲシテ小川軍參謀長ヲ仁川ニ送ラシメ。艦隊ハ暫ク此ニ止ラントセシニ。是夕十一時三十分。軍艦高雄突然山縣軍司令官ヨリ伊東司令長官ニ宛タル情報ヲ齎ラシ來テ曰ク。陸軍ハ着着其歩ヲ進メ。十一日既ニ師團司令部ハ大同江鐵島ノ上流ヲ涉リ。益

軍艦吉野
高千穂威
海衛ヲ偵察
シテ歸ル
常備艦隊司
令官威海衛
偵察報告

鋭進セリ。今後糧食ハ直接ニ大同江へ運搬スヘキヲ以テ。至急海軍ノ
應援ヲ望ムト。

十四日午前。軍艦吉野、高千穂威海衛ヲ偵察シ。歸報シテ曰ク。威海衛ニ
ハ敵ノ主戰艦隊ナク。僅ニ數艘ノ汽船アルノミト。

(常備艦隊司令官海軍少將坪井航三威海衛偵察報告 明治三十七年
九月十四日)

(前略) 九月十二日午前十時五十分。豐島沖シヨバイオール島ノ南西方ニ於テ左ノ命
ヲ受取ル。

直ニ大同江ニ進ムコトハ山縣軍司令官ト協議ノ末、更ニ第五師團ノ戰況報告ヲ得ル
迄見合スコトナレリ。其間艦隊ハ専ラ第三師團ノ上陸ヲ安全ニセシメシメ爲メ。當附
近ニ在リテ警戒ス。

貴官ハ高千穂ヲ率ヰテ威海衛偵察ニ赴キ。本隊ニ歸リ報告スヘシ。

本隊ハカロリン灣ノ西方ニ假泊ス。

因テ第一游撃隊中ノ浪速、秋津洲二艦へ信號シテ本隊ト共ニ留ラシメ。吉野、高千穂ヲ
率ヰ威海衛ニ向テ進航ス。

同日午前一時十五分。ボンデキ島ニ並ヒ。針路ヲ山東角ヲ距ル十二海里外ノ地點ニ向
ヒ定メシメ。明十三日ノ日出前ニ該地點ヲ過キ。午前六時頃。日出ノ後ニ偵察ヲ成遂ク

吉野艦長威
海衛偵察報
告

シト豫定シ。速力ヲ加減セシメタリ。

九月十三日午前四時。山東角ニ並ヒ。同六時。威海衛ノ東口。百尺崖ノ北方約三千米突ノ地點ニ至リ。港内ヲ見ルニ。敵ノ主戰艦隊在ラスシテ。只小艦船四隻アリシノミ。午前六時二十分。左方ニ旋回シテ其西口ニ至リ。再、港内ヲ見ルニ。小艦船二隻アリシノミ。以上威海衛ニ在リシ艦船ハ僅ニ六隻ニ過キサリシ。其實況ハ別紙吉野艦長報告ニ添ヘタル圖面ニ在リ。

是レヨリ先キ東口ニ至リタル時ニ於テ。港外ニ一汽船アルヲ認メシニ。西口ニ至ルノ時ニ於テハ。遙ニ芝罘ノ方向ニ航行シ居レリ。其距離遠キカ故ニ。敵ノ艦船ナルヤ否ヤ判明セザリシ。

六時五十分。歸路ニ就カシメ。山東角ヨリ十海里以下ノ速力ヲ用弗。今朝航着ノ算ヲ爲セリ。九月十四日午前七時。カロリン灣口西方ニ着ス

(別紙)

(吉野艦長海軍大佐河原要一威海衛偵察報告 明治二十七年九月十二日)

九月十二日午前十時五十七分。シヨバイオール島ノ南方ニ於テ威海衛偵察ノ命ヲ受ク。高千穂ト共ニ之ニ向フ。午後一時二十分。ボンデキ岩(南岩)ノ南二海里ヨリ針路ヲ西徹北 $\frac{1}{4}$ 北ニ定メ。山東高角ノ北十二海里ニ向ヘリ。當夜各砲ヲ水雷艇防禦ノ位置ニ旋回シ。四分ノ一ノ哨兵ヲ置ク。

十三日午前零時二十分ヨリ半舷哨兵ヲ配シ。砲員外及前後旋回砲員ニ小銃實包ヲ

0688

野村山口、
木山三海軍
少尉威海衛
觀察報告

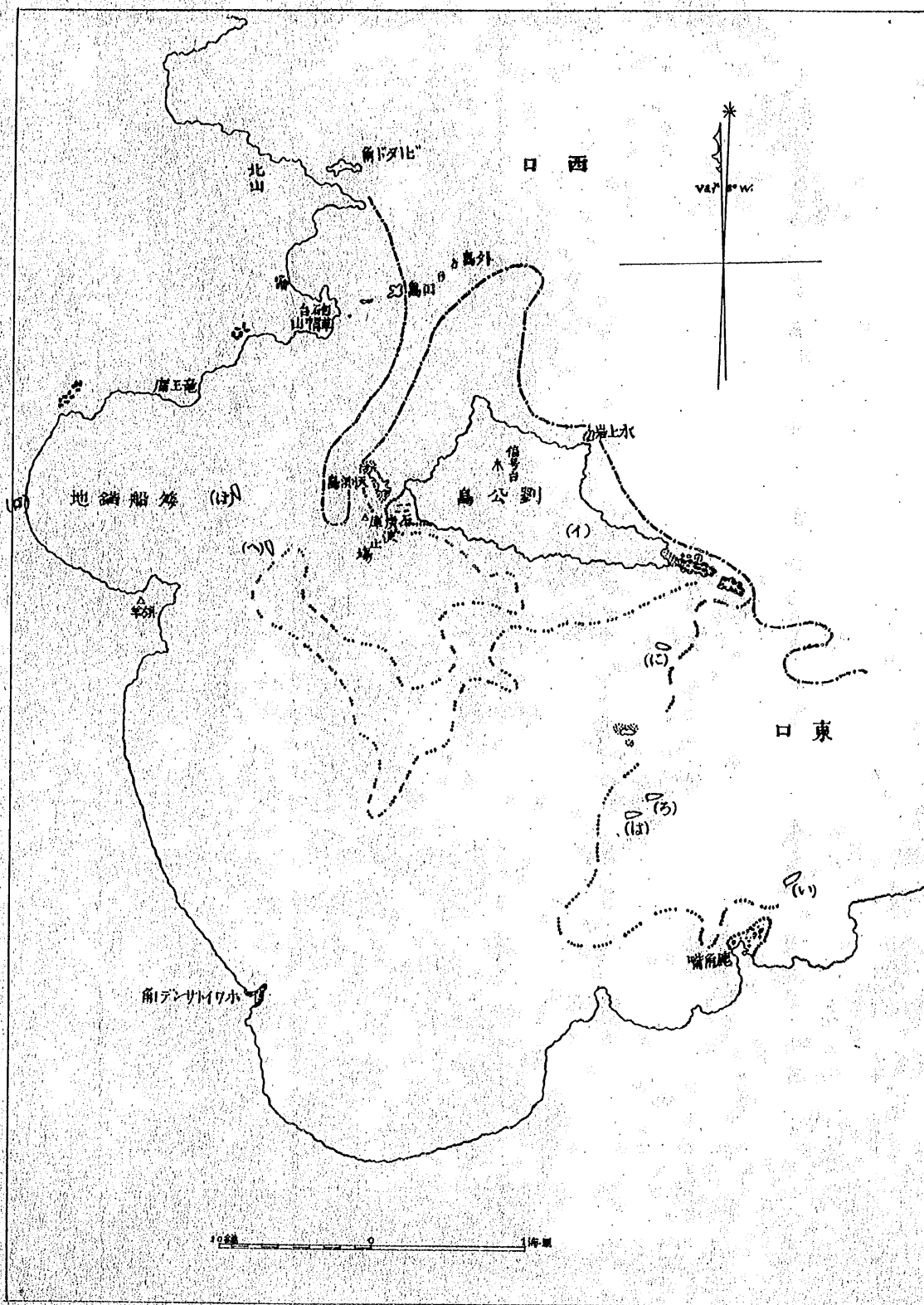
配付ス。此頃ヨリ前路ニ薄霧ヲ見ル。午前二時左舷艦首ニ山東高角ノ燈光ヲ認ム。午前四時ヨリ。士官及眼力強キ兵員ヲ選ミテ檣樓ニ登セ觀察セシム。午前四時四十分山東高角燈臺ヲ左舷正横十二海里ニ望ミ。西ノ南ニ變針ス。此時總員ヲ起シテ就食セシム。午前四時三十分砲員ヲ各砲ニ配ス。午前五時二十五分。コースト島ヲ左舷正横八海里ニ見テ針路ヲ轉シテ威海衛ノ東口ニ向フ。午前五時五十分。戰鬪部署ニ就キ。漸ク東口ニ接近シ。午前六時。劉公島ノ東角ヲ距ル東微北四海里ニ處ニ至リ。針路ヲ轉シテ左ニ殆ト三十二點ノ方向變換ヲ行ヒ。大口山ノ方向ニ航行ス。此頃最高速力十五海里半ト爲シ。而シテ西口ヲ覗ヒ。天測島ト劉公島ノ南西角トノ中間ヨリ錨地ヲ開視シ得ル迄航進シ。觀察ヲ了ル。其詳細ハ別紙登檣士官ヨリノ報告ニ在リ。午前六時四十五分。針路ヲ轉シ漸次速力ヲ減ス。午前六時五十三分。彈藥ヲ収ム。午前七時四分。劉公島頂ヲ距ル北東九海里ニ處ヨリ東ニ南ニ針路ヲ定メ。速力ヲ十二海里ト爲ス。午前七時五十分。針路ヲ東南東ニ變シ。命ニ依リ歸航ノ途ニ就ク。午前八時五十五分ヨリ原速力十海里。午後三時十分ヨリ八海里ト爲セリ。

(別紙)

(海軍少尉野村勉、同山口銳、同木山信吉威海衛艦船觀察報告 明治二十七年九月十三日)

小官等威海衛内艦船有無ノ觀察ヲ命セラレ候ニ付。午前四時檣樓ニ登ル。

一、午前四時。右舷正横ニ燈光ヲ認ム。殆ト位置ヲ變セサルモノ、如シ。蓋シ漁船ノ燈火ナラン。



0690

一、午前四時三十分頃ヨリ西方ニ一團ノ朦朧タル雲霧ノ如キモノヲ認ム。初メ威海衛附近ノ陸地ト信セシカ。午前四時五十分ニ至リ。一汽船ノ西方ヨリ來ルヲ見テ其煤煙ナルヲ知レリ。

一、午前五時、劉公島ヲ認メ、東西兩口ヲ明視スルヲ得タリ。

一、午前五時三十分、劉公島角ヲ距ル四海里半ノ處ニ至リ。威海衛東口ニ(い)(ろ)(は)(に)ノ四汽船ヲ認ム。初メ(に)ハ港内ヨリ出テ來リシカ。後チ舵ヲ轉シテ港内ニ退航セリ。其(い)ハ鎮南形ノ軍艦(ろ)ハ小形砲艦(に)ハ運送船ナリ。

一、午前五時四十分、左三十二點ノ方向變換アリ。約北西ノ方向ニテ劉公島ニ沿フテ航ス。島上(い)ノ位置ニ於テ五個ノ天幕ヲ認メ、山頂信號桿ニ信號旗ノ懸ヘルヲ認メタリ。

一、午前六時十五分、威海衛西口ヲ望ムヲ得タリ。(ロ)沿岸附近ニ於テ支那形帆船五六艘ノ碇泊セルヲ認ム。去ル八月十日當港進撃ノ時港外ニ漂泊セシ帆船ニ同シ。

一、續テ港内ニ煤煙ヲ騰クル一汽船(は)ノ碇泊セルヲ認ム。熟視シテ其康濟ナルヲ知ル。又汽船(へ)ヲ認メ、其揚威形ナルヲ知ル。

一、午前六時三十分、黃島天測島ト劉公島南西角トノ間ヨリ鰯地ヲ望ムヲ得タレド、他ニ艦船ヲ認メス。

一、午前六時四十分、先ニ西方ヨリ來リシ汽船ハ暫ク停止シアリシカ。此ニ至リ舵ヲ轉シテ、約南西ノ方向ニ航行スルヲ見タリ。

0691

海門、秋津洲
二艦、仁川及
シヨ、バイオ
ール島ヨリ
歸ル

伊東司令長
官、軍艦高雄
ヲシテ、山縣
軍司令官ニ
海軍ノ應援
ヲ報セシム

帝國艦隊カ
ロリン灣ヲ
發シテ大同
江ニ向フ

一、午前六時五十分、觀察ヲ了リ、命ニ依リ、檣樓ヲ下ル。

踵テ軍艦海門ハ仁川ヨリ、軍艦秋津洲ハシヨ、バイオール島ノ巡邏地
ヨリ歸リ、各、異狀無キヲ報ス。是ニ於テ伊東聯合艦隊司令長官ハ先、軍
艦高雄ヲ仁川ニ遣シ、山縣軍司令官ニ本日午後四時、陸軍應援ノ爲メ。
第三游撃隊ヲ大同江ニ派シ、本隊モ亦掩護ノ爲メ、俱ニ至ラントスル
旨ヲ告ケシメ、且、西海艦隊司令長官海軍少將相浦紀道ニモ、本隊ハ大
同江ニ赴クヲ以テ、陸兵ノ上陸終ラハ、直ニ麾下ノ諸艦ヲ率、井、大同江
ノ假泊地ニ來會スヘキノ命ヲ傳ヘシム。午後四時、第一游撃隊、本隊、第
三游撃隊、特務艦及、運送船、順次、拔錨シテ大同江ニ向フ。其序列左ノ如
シ。

第一游撃隊

第三游撃隊
本 隊

隊

特務艦
津門 磐城 天城

運送船
千代丸 芝海丸 朝顔丸

西京丸

大東河口及
椒島ノ偵察

伊東司令長
官第三游撃
隊ヲシテ陸
軍ノ應援ヲ
爲サシム

陸軍應援ニ
就キ軍艦筑
紫ノ日誌摘
要

愛宕ハ摩耶ト衝突シテ。艦體ノ前部ニ損所ヲ生シ。修理ノ爲メ淺水灣ニ廻航シ。赤城ハ司令長官ノ命ヲ帶ビテ仁川ニ赴キタルヲ以テ。此序列ニ加ラス。

水雷母艦山城丸豊島ヨリ水雷艇三艘ヲ率井テ途中ニ會シ。信號シテ曰ク。水雷艇ニ水ト石炭トヲ供給セント欲スト。伊東司令長官之ニ向テ供給了ラハ大同江ニ來ルヘキヲ命ス。翌十五日。艦隊進テ大青島（朝鮮國黃海道大東河口附近）ノ邊ニ至ルヤ。第一游撃隊ノ吉野高千穂ハ偵察ノ爲メ大東河口ニ浪速秋津洲ハ大同江附近ニ在ル椒島ニ向フ。此時山城丸及水雷艇三隻來リ會ス。猶進テ小乳（朝鮮國黃海道ノ最西端）ノ邊ニ達ス。乃伊東司令長官ハ軍艦筑紫ニ命シ。第三游撃隊諸艦ヲ率井。大同江ニ進ミ。鐵島ニ廻リテ。臨機陸軍ノ應援ヲ爲サシム。且特務艦中ヨリ軍艦天城磐城ヲ選拔シテ筑紫艦長ノ麾下ニ屬シ。第三游撃隊ト運動ヲ與ニ俱ニセシム。

第三游撃隊ノ大同江湖洞後ノ動作ハ。軍艦筑紫ノ日誌ニ詳カナルヲ以テ。其一節ヲ左ニ摘録ス。

九月十五日午前。命ニ依リ第三游撃隊ハ本隊ト列ヲ離レ。大同江ニ向フ。時ニ鐵島（朝鮮國）日

0693

帝國艦隊小
乳蠶岬北東
ニ碇泊ス

リ磐城天城ヲ後ヨリ遣リ。貴艦ノ指揮ヲ受ケシムトノ信號アリ。途中武藏ノ大同江ヨリ來ルニ會シ。景況ヲ問ヒシニ。異狀無シト答フ。午後。江口ニ於テ疑ハシキ漁舟碇泊シ居リタルヲ以テ。島海ヲシテ觀察セシメタルニ。朝鮮漁舟ニシテ異狀無シ。日暮漁隱洞ニ投錨シ。秋山少尉ヲシテ五里浦ヲ觀察セシメタルニ。土人ノ言ニ據レハ。日本兵ハ既ニ鐵島ノ上流ヨリ江ヲ渡レリ。且、黃海道ノ人民ハ日本人ニ對シテ平穩ナリト雖。平安道ハ不穩ノ模様アリト。

同十六日。警戒ノ爲メ天城ヲ漁隱洞ニ留メ。其他ハ山城丸、水雷艇ト俱ニ鐵島錨地ニ回航シテ近傍ヲ觀察セリ。觀察員谷大尉報シテ曰ク。我師團兵ハ去ル十二日ヨリ十四日迄ニ義津浦ヨリ渡リシ。平壤ニ進軍中ノ旨。彈藥隊矢野砲兵中尉ヨリ確メタリト。因リテ午後。山城丸、水雷艇ト俱ニ島海ハ通信ノ爲メ尙、碇泊ス。漁隱洞ニ歸港ス。

同十七日午前。右ノ事情報告ノ爲メ磐城ヲ本隊ニ遣シ。天城ヲシテ島海ト交代セシム。同十八日午前。磐城ハ西海艦隊司令長官ノ命ヲ受ケ。陸軍運送船二隻ヲ率テ鐵島ニ向フ。同時頃。天城歸リ來リ平壤落城ヲ報ス。續テ通信船明石丸入港シテ。日清艦隊太孤山沖ニ於テ開戦セシヲ報ス。因リテ山城丸ハ水雷艇ヲ率テ直ニ出港シ。午後ニ至リ第四游撃隊席島附近ニ達シ投錨。令ヲ待ツ。(下略)

既ニシテ軍艦吉野、高千穂、大東河口ヨリ歸航シテ敵無キヲ報ス。午後一時二十分ニ至リテ艦隊ハ小乳蠶岬ノ北東ニ在ル錨地ニ達シ。本隊

0694

伊東司令長
官各艦ニ向
テノ處置

伊東司令長
官清國艦隊
ノ大孤山或
ハ大東溝ニ
赴クヘシト
ノ報ニ接ス

ハ二列陣形ヲ布テ碇泊ス。列ノ方向ハ北東微北ニシテ。嚮導艦ノ方向
ハ西北西トス。而シテ第一游撃隊ハ其外面ニ。他ノ諸艦船ハ盡ク其内面
ニ碇泊セリ。午後三時。軍艦浪速。秋津洲。椒島ヨリ來會シ。敵無キヲ報
ス。軍艦赤城モ亦仁川港ヨリ來會ス。伊東司令長官ハ乃チ赤城ヲ直ニ大
同江ニ派シ。筑紫以下ノ諸艦ト運動ヲ俱ニセシメ。爾他ノ諸艦ハ石炭
ヲ積込マシム。赤城發シテ未ダ數時ヲラス。司令長官更ニ之ヲ本隊ニ
附隨セシメント欲シ。軍艦武藏ニ命シテ曰ク。急キ大同江ニ赴キ赤城
ヲ伴ヒ來レ。但途中本隊ニ歸レノ遠距離信號ヲ掲ケテ往クヘシト。(武藏
ハ十五日機械ノ修
理ヲ了ヘ來會セリ)後殆ト四時間ニシテ武藏。赤城ト相伴フテ還ル。是ヨ
リ先キ司令長官ハ敵艦隊ト交戦スルノ期ナキヲ憂ヒ。渤海灣内ヲ縱
横ニ偵察シ。以テ潛伏セル敵ノ艦隊ヲ擊破セント決心スルノ際。會。清
國艦隊ハ義州。鴨綠江方面ヨリ。陸兵及軍需品ノ運送船ヲ護送シテ。大
孤山或ハ大東溝ニ赴クヘシト。朝鮮國京城駐劄特命全權公使大島圭

0695

介ヨリ情報アルノミナラス。九月十四日。艦隊カロリン灣ニ碇泊中。在仁川海軍少佐新納時亮ハ。陸軍歩兵中佐福島安正黃州ヨリノ發電ヲ。當時西京丸ニ乘坐スル海軍軍令部長海軍中將子爵樺山資紀ノ手ヲ經テ送致セリ。其文ニ曰ク。

本日大同江ニテ支那船ヲ捕ヘ左ノ事ヲ知レリ。奉天練軍ヲ孤山ニ出シ。獐、鹿二島ノ近海ヲ警戒スト。委細手紙。

福島歩兵中佐ノ此電報ヲ發スニル至リタルハ。大同江ニ於テ一隻ノ清國船ヲ捕ヘ。大孤山附近ニ在ル清將ノ手簡ヲ得タリ。其文ニ曰ク。

謹テ白ス。職案スルニ孤山ヨリ海口以南四五十里ノ許ニ。獐、鹿ノ二島アリ。汽船來往ニハ必ス經過スルノ要所ト爲ス。職隊兵ヲ監督シテ協力巡防シ。時々洋上ヲ瞭望セシメ。汽船ノ經過スルモノ有ル毎ニ。兵船ト商船トヲ探究スルモ。遙遠ナル所測度シ難ク。僅ニ炭烟來往ノ痕ヲ見テ。未タ商民ノ惶懼ヲ免レシメス。

又近頃一要所アリ。外船内泊シ。或ハ商船ヲ捕撃シ。或ハ漁舟ヲ備ヒ。海潮ニ從テ出入シ。頗ル混淆シ易シト聞キ。更ニ一隊ヲ沿河要扼ノ岸頭常川ニ派シテ守備セシメ。汽船ノ進ミ來ルモノアルハ。即時詳查シテ報聞セシメ。日々街ニ赴テ嚴查探訪シ。天

福島歩兵中
佐清國艦隊
運動ニ就キ
發電ニ及ヒ
タル來歴

伊東司令長官各艦ニ石炭量ヲ問ヒ巡航日割ヲ定ム

氣晴和ノ日ヲ見テハ。全隊ヲ率。空地ヲ擇テ演習シ。以テ聲威ヲ盛ニシ。晝ハ則チ山ニ登テ瞭望シ。夜ハ則チ海岸ニ就テ巡察ス。此軍務緊急ノ際ニ當リ。此海口ニ派セリ。自ラ必ス時ニ隨ヒ勢ヲ度リ。愚誠ヲ竭盡シ。務メテ虞ナキヲ期ス。謹テ奉聞ス。職又敬テ白ス。遠ク芝罘ヲ隔テ。時ニ塵晦ヲ懷フ。總帥大人閣下勳隆ニ任干城ヨリ重シ。三軍ヲ統テ勞苦功高シ。職恩ヲ受クル最モ渥シ。謬テ防營ニ任セラレ。孤山ニ陟リテヨリ。隊伍ヲ嚴肅ニシ。邊海ヲ巡視シ。而メ高眷ニ達ハサラントス。茲ニ寸箋ヲ修メ。敬テ閣下ノ平安ヲ希望ス。敬白。

獐鹿二島ハ常ニ汽船ノ通行スヘキ所ニアラス。故ニ書中ノ所謂汽船ナルモノハ。我軍ニアラサレハ。清國ノ艦船ナルヘキヲ以テナリ。此電報ニ接スルヤ。軍令部長ハ其幕僚タル海軍少佐伊集院五郎ヲ艦艦ニ遣ハシ。伊東聯合艦隊司令長官ニ諮議スル所アラシム。

是ニ於テ伊東聯合艦隊司令長官ハ。先、海洋島及、大洋河口（清國盛京省義州ノ南岸）ヲ偵察シ。夫、ヨリ大連灣、旅順港等ヲ脅カシ。進テ渤海灣ニ入り。若シ敵艦ニ遭遇セハ直ニ撃破セシト決シ。十六日朝。各艦ニ石炭量ヲ問ヒ。巡航日割ヲ定ムル。左ノ如シ。

0697

地名	直航里程	迂回里程	着時日	發時日
小乳礁 サタル 錨地				十六日 四時後
盛京省 海洋島	一〇〇		十七日 六時前	同 七時
同 小鹿島	五〇		十七日 一時後	同 六時
山東省 威海衛	一四五		十八日 正午	同 二時
盛京省 大連灣	九〇	一三六	十九日 七時前	同 九時
同 旅順口	三〇		十九日 一時後	同 二時
直隸省 大沽	一六〇		二十日 十時前	同 四時後
同 山海關	一二〇		二十一日 七時前	同 十二時
同 牛莊	一二〇	一五〇	二十二日 六時前	同 八時
山東省 威海衛	二四〇		二十三日 二時後	同 三時
現錨地	一三〇		二十四日 七時前	

0698

迂回里程ハ次ノ場所ニ到着ノ時刻ヲシテ便宜ナラシメンカ爲メ。
特ニ設ケタルモノニシテ。其迂回スヘキ航路ハ。成ルヘク次ノ目的
地ヲ陸ヨリ覺ラレサル様勉ムヘキナリ。

右ノ如クナルカ故ニ。前記ノ巡航ヲ爲スニハ。七晝夜ト十五時間ヲ
以テスレハ足レリ。此間始終入節宛ノ速力ヲ以テ航海シアルモノ
トシテ算スレハ。大概遺算ナカルヘシト雖モ。若シ八晝夜ノ石炭ヲ
費スモノト覺悟セハ。更ニ大丈夫ナルヘシ。今朝各艦入節ノ速力ヲ
以テ。石炭ノ續ク日數ヲ問ヒシニ。其答フル所左ノ如シ。故ニ最モ石
炭持續力ノ少キ比叡ニテモ。此巡航ヲ了テ尙二日分ノ石炭ヲ剩ス
ヘシ。

吉野	二一晝夜	千代田	一三晝夜
浪速	二〇	嚴島	一四
秋津洲	一三	橋立	一八

伊東司令長官艦隊ヲ率
海軍洋島ニ
向テ發ス

高千穂	二五	比叡	一〇
松島	二四	扶桑	一一

迂回航路ヲ執ルトキハ本隊第一游撃隊ノ先頭ニ立ツ。

同日午後五時。伊東聯合艦隊司令長官ハ本隊第一游撃隊及軍艦赤城、西京丸ノ十二隻ヲ率井。黃海北部ナル海洋島ニ向テ發ス。此行特ニ赤城ヲ率井タルハ。喫水淺キヲ以テ。沿岸或ハ島嶼ノ間ヲ搜索セシムルニ便ナルカ爲メ。西京丸ハ樺山海軍軍令部長ノ一行之ニ乘坐シ。本隊ト運動ヲ共ニシ。以テ戰況ヲ視察セント欲スルカ爲メナリ。其艦隊ノ序列ハ左ノ如シ。

第一游撃隊

本隊
西京丸

午後七時。針路ヲ北西ニ西ニ變シ海洋島ニ向フ。是夕西南風稍威ヲ加ヘ。小雨之ニ從ヒ。風上閃々電光ヲ見ル。

第一游撃隊
海洋島附近
ニ達ス

海洋島位置

軍艦赤城家
登港内ヲ偵
察ス

當時假根據地ニ殘リタル艦船ハ。軍艦武藏、海門及工作船玄海丸、運送船朝顔丸、千代丸、土洋丸、明石丸等ナリ。第三游撃隊ハ皆鐵島ニ在リ。而シテ海門艦長ニ命シ。艦隊出航後ハ運送船ヲ便宜ノ位置ニ集合セシム。

十七日昧爽。第一游撃隊ハ海洋島附近ニ達ス。

海洋島ハ大連灣ノ東六十海里。鴨綠江ノ南西八十海里ニ在リ。北緯三十九度四分。東經百二十三度十分五秒ニ位ス。

其西岸ナル巖口ニ近キ其内ヲ視ヒツ、針路ヲ北東ニ變シ。大洋河口ニ向フ。次テ午前六時三十分。本隊モ亦之ニ近キ。軍艦赤城ニ命シテ巖内家登港ニ入リテ敵艦ノ有無ヲ偵察セシメ。速力ヲ減シテ之ヲ待ツ。暫時ニシテ赤城出テ來リ敵無キヲ報ス。因テ第一游撃隊ト同航路ヲ採リ。行々三艦群陣ノ一ヲ編制シ。戰闘操練ヲ爲ス。時ニ赤城ト巡洋艦代用西京丸トハ本隊ノ右側ニ在リ。第一游撃隊ハ單縱陣ヲ布キ。先頭ニ在テ航進ス。其艦隊ハ左ノ如シ。

第一游撃隊

聯合艦隊航
進序列

當日海洋島
附近ノ氣象
觀測

各 海 軍 兵

吉 野(司令官旗艦) (一) 高千穂(二) 秋津洲(三)

浪 速 (四)

松 島(司令長官旗艦) (一) 千代田(二) 嚴 島(三)

橋 立 (四) 比 叡(五) 扶 桑(六)

以上ノ外

軍艦赤城 巡洋艦代用西京丸

是日。曉來風死シ雨歇ミ。天高ク氣朗カナリ。軍艦吉野、秋津洲、松島、嚴島、
橋立、比叡、赤城ノ海洋島附近ニ於ケル氣象觀測ハ左ノ如シ。

時	風向	風力	晴雨計	乾寒暖計	濕寒暖計	天候	雲形	雲量	波浪	觀測艦
一午時後	南西	一	三〇、〇三	七五	七〇	晴曇	卷積層	一	無S	吉野
一午時後	東	一	三〇、一〇	七四	七〇	晴曇	卷積	二	和M	秋津洲
一午時後	北々西	一	三〇、〇九	七七	七〇	晴曇	卷積	三	無S	松島
一午時後	不定	零乃至一	三〇、一四	七七		晴曇	卷積	二		嚴島
						BC	OK			

0702

吉野本隊ニ
敵ノ艦隊見
ユノ信號ヲ
掲ク

本隊戰闘陣
形ニ改ム

伊東司令官
各艦ニ命シ
テ大軍艦旗
ヲ掲ク兵員
ヲ戰闘配置
ニ就カシム

午後一時	午後一時	午後一時
東	不定	東
一	零乃至一	零乃至一
	三〇、一四	三〇、二二
	七六	七五
	七二	
晴曇	晴曇	晴曇
BC	BC	BC
巻積		巻
OK		O
三	一	五
赤城	比叡	橋立

午前十時二十三分。東北東ニ當リ水平線上一縷ノ雲霧ノ如キモノヲ見ル。第一游撃隊ノ旗艦吉野ハ乃、信號ヲ以テ之ヲ本隊ニ報ス。少焉アリテ一縷二縷ト爲リ。三四縷ト爲リ。遂ニ清國軍艦ナルヲ認ムルニ至リタルヲ以テ。再、本隊ニ向テ敵ノ艦隊三隻以上東方ニ見ユトノ遠距離信號ヲ掲ク。時ニ同十一時三十分ナリ。是ニ於テ本隊ハ直ニ群陣ヲ解キ。豫テ戰闘陣形ト定メラレタル單艦單位ノ單縱陣ヲ布キ。軍艦赤城及西京丸ヲ本隊ノ右側ヨリ左側(非戰闘側)ニ移ス。

午後零時五分。伊東聯合艦隊司令長官ハ各艦ニ命シテ大軍艦旗ヲ檣頭ニ掲ク。兵員ヲ戰闘配置ニ就カシム。第一游撃隊ノ諸艦モ亦之ニ準ス。已ニシテ我艦隊漸ク進ムニ從テ漸ク瞭カニ。敵ハ十隻ヨリ成ル優勢ノ艦隊ニシテ。我軍前面ノ右方ニ當リ黑煙ヲ叢騰シテ進ミ來リ。又

0703

坪井司令官
第一游撃隊ニ
命令ヲ發ス
伊東司令長
官第一游撃
隊及西京丸
赤城ニ命
令ヲ發ス

第一游撃隊
單縱陣ヲ以
テ進ム

敵艦隊ノ陣
形

我軍ノ前面左方ニモ別ニ二三隻ノ敵艦アリテ其煤煙ハ次第ニ左方ニ移ルヲ見ル。坪井司令官ハ之ヲ望ミテ第一游撃隊ノ諸艦ニ向ヒ「適當ノ距離ニ至ラハ發砲スヘシ」ト令シ。伊東司令長官ハ同零時十八分。第一游撃隊ニ右方ノ敵ヲ攻撃スヘキヲ命シ。同二十分。西京丸ニハ「避ケヨ」ト命シ。本隊ニ向テハ。同三十分ニ「速力十海里。同三十二分ニ「距離ニ注意セヨ」。同四十分。赤城ニ「近寄レ」ト命シ。同五十分。各艦ニ「適當ノ時機ニ達セハ發砲セヨ」ト命ス。

當時第一游撃隊ハ針路ヲ東北東ニ取り。原速力即ハ八海里ヲ以テ進ミ。零時三十分ヨリ伊東司令長官ノ命ニ依リ。速力ヲ十海里ニ進ム。坪井司令官ハ屢距離ノ注意ヲ促シ。嚴正ナル單縱陣ヲ以テ。先ツ右方敵艦隊ノ中堅ヲ指シ。之ヲ突カントスルカ如キ姿勢ヲ取りテ進航ス。而ソ是時敵ノ艦隊ハ七海里ノ速力ニテ最。啓開セル後翼單梯陣ヲ布キ。或ハ鱗次横陣。或ハ單横陣ト見ル者ニ從ヒ同シカ。其中堅ニ定遠(旗艦)鎮遠ヲ置キ。ヲスト雖也。茲ニハ漢納根ノ報告ヲ採レリ。

0704

其左翼ニ來遠、致遠、廣甲、濟遠アリ。其右翼ニハ經遠、靖遠、超勇、揚威アリ。清國精銳ノ堅艦ヲ列テ。堂々正々我第一游擊隊ニ向テ航進セリ。(第一圖參觀)

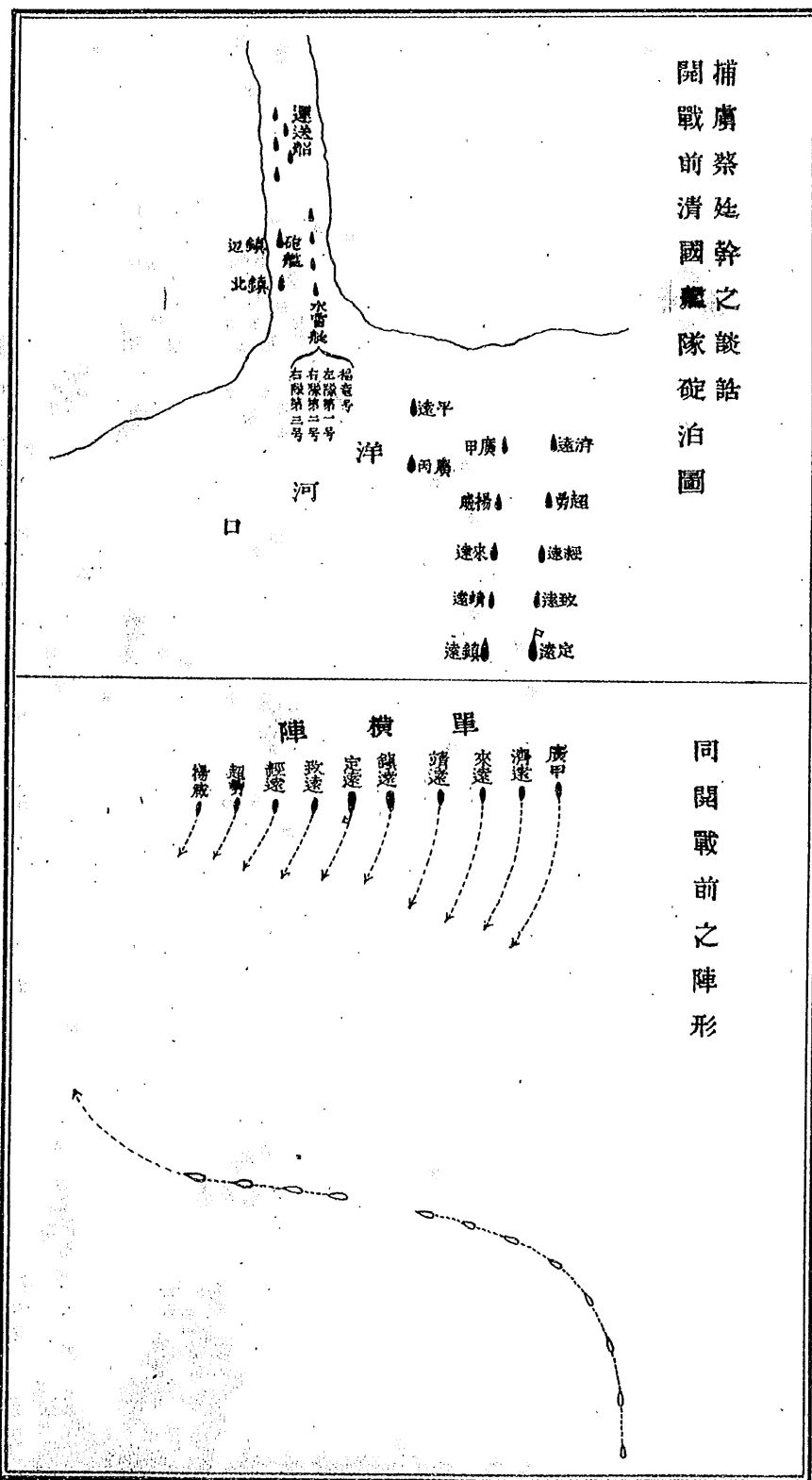
當時定遠ニ乗組タル北洋海軍總查漢納根(獨逸艦 軍少佐)ヨリ北洋大臣直隸總督李鴻章ニ呈出シタル海戰報告ノ要ニ曰ク。清國北洋海軍提督丁汝昌ハ艦隊ヲ統率シ。大連灣ノ陸兵ヲ搭載シタル運送船ヲ護送シテ。大東溝ニ到ルヘキノ命ヲ受ケ。九月十二日。威海衛ヲ援錨シテ。十三日朝。旅順口ニ達シタリ。同日正午。日本軍艦威海衛方面ニ在リトノ電報ニ接シ。午後三時。倉皇旅順口ヲ出テ威海衛ニ回航シ。十四日。更ニ又山東角ニ向テ進航セリ。是レ同日ハ獨逸船「イレチ」號カ彈藥ヲ搭載シテ威海衛ニ到着スヘキ豫定ナルヲ以テ。日本軍艦ノ同港沖ニ出沒スルハ。同船ヲ海上ニ要シテ。其彈藥ヲ掠奪スルノ目的ヲラント推測セシカ故ナリ。已ニシテ全艦隊ハ山東角ニ達シ。其附近ノ海面ヲ巡邏警戒シ。獨逸艦遠ノミ威海衛ニ回航セシカ。同所ニ於テ始テ日本軍艦ハ吉野、浪速ノ二隻ナルヲ聞知シタリ。然ルニ同日晝間「イレチ」號ノ遂ニ到着セサルヲ以テ。夕刻ニ至リ。各艦盡ク山東角附近ニ集合シ。午後十一時。同所ヲ去テ針路ヲ大連灣ニ向ケ。翌十五日朝。同灣ニ投錨セリ。初メ丁提督ハ幕僚ト謀リ。運送船護送ノ任務ヲ果スノ前。先艦隊ヲ率テ朝鮮國近海ヲ巡航スルノ議ヲ決セシカ。會。同地ニ於テ。天津及義州ヨリ發シタル平壤ノ清軍日本兵ノ脅カス所ト爲レリトノ電報ヲ得。此際寸時モ猶豫セハ。竟ニ朝鮮國內ヘ陸兵輸送ノ時機ヲ失スヘキヲ想ヒ。朝鮮國沿海巡航ノ計畫ヲ止メ。遽ニ陸

0705

福龍號艇長
蔡廷幹口述

兵ヲ運送船ニ搭乘シ。即夜出帆ノ準備ヲ完成シタリ。
九月十六日午前一時。艦隊ハ前衛トシテ先發シ。五隻ノ運送船隊ハ一時間ヲ隔テ、援
鎗シ。針路ヲ艦隊通跡ノ南方ニ探リテ進航セリ。午後二時。軍艦運送船共盡ク大東溝（或
トモ云フ）ニ到着ス。丁汝昌ハ先ッ砲艦二隻及ヒ水雷艇二隻ヲ分派シテ溝内ヲ偵察セシメ。
次テ運送船ハ出來得ヘキ限リ迅速ニ軍隊ヲ上陸セシムヘキヲ命令シ。而ノ平遠、廣丙
ノ二艦ハ溝口ニ在リテ。之レカ警護ノ任ニ當リ。艦隊ハ同所ヲ距ル十海里ノ水底深キ所ニ
投錨シテ。遙ニ運送船ヲ掩護セリ。其軍艦ハ定遠、鎮遠、經遠、來遠、靖遠、致遠、濟遠、揚威、超勇、
廣甲ノ十隻及ヒ水雷艇二隻ナリ。艦隊ハ翌十七日朝迄無事ニ碇泊セシカ。午前十時ニ至
リ。南方ノ天際ニ一抹ノ汽煙ヲ發見シタリ。十時三十分ニハ八隻ノ艦影ヲ見。正午ニハ
十二隻ヲ算スルニ至レリ。而ノ清國艦隊ハ汽煙ヲ認ムルノ初ニ於テ。已ニ日本軍艦ナ
ルヘキヲ推察シ。急ニ錨シテ五海里程航進セシ時。仔細ニ日本軍艦ヲ觀察スルヲ得
タリ。是ニ於テ丁提督ハ最モ展開セル後翼單梯陣ノ陣形ヲ探リ。各艦ノ速力ヲ七節ト
爲シ。以テ日本艦隊ト戰鬪ヲ開始セリ。
捕虜清國水雷艇福龍號管帶都司蔡廷幹ノ口述ニ曰ク。（明治二十八年二月二十一日。黃海ノ
海戰ニ與リシ我國ノ軍艦ハ定遠、鎮遠、致遠、靖遠、來遠、經遠、超勇、揚威、濟遠、廣甲ノ十隻ヲ
本隊ト爲シ。平遠、廣丙、鎮北、鎮邊ノ四隻及ヒ水雷艇福龍號、右隊第一號、右隊第二號、右隊第
三號ノ四隻ハ洋河口ニ在リテ。專ラ運送船ノ保護ニ任セリ。當時該河附近ニ在リシ各艦
ノ位置及ヒ交戰ノ初期ニ於ケル本隊ノ陣形ハ左圖ニ示スカ如シ。

0706



0707

第一游撃隊
先ツ敵ノ右
翼ヲ撃破セ
ントス

高木常備艦
隊航海長黃
海海戰記臆
誌摘要

敵ノ旗艦定
遠先ツ發砲
ス

坪井司令官
第一游撃隊
ニ進航ノ速
度ヲ命ス

彼我兩艦隊相距ル殆ト一萬二千米突ニ及ヒ。我第一游撃隊ハ少シク
左方ニ針路ヲ轉シ。先敵ノ右翼ヲ撃破シ。以テ其全軍ノ兵氣ヲ挫折セ
ント企テタリ。

常備艦隊航海長海軍少佐高木英次郎ノ黄海海戰記臆誌中ニ曰ク。第一游撃隊敵ノ艦
隊ト砲煙ヲ交ユル數分時前。敵艦隊ノ右翼ノ二艦ハ方向ヲ左方ニ轉シ。暫クシテ元ノ
方向ニ復シタリ。是ヲ取リモ直サキ我艦隊ト距離接近セルヲ恐レ。之ヲ避クルヲ道ヲ
取リタル者ノ如シ。察スルニ敵艦ノ命令ニ基クニ非ハシテ。兩艦長ノ臆病心ニ由
リタル者ノ如シ。

午後零時五十分。兩艦隊愈相近キ約六千米突ニ至ルヤ。敵ノ旗艦定遠
先我ニ向テ砲撃ヲ開始シ。諸艦一齊ニ之ニ倣フ。而シテ其彈丸ハ概テ我
第一游撃隊ノ近傍ニ落着セリ。然レモ我第一游撃隊ハ距離猶遠ニ過
クルヲ以テ。自重シテ敢テ應セス。會微風東方ヨリ來リ。敵ノ硝煙ハ其
艦隊ノ前ニ横ハリタルヲ以テ。左翼ニ列スル敵艦ハ之ヲ確認シ難キ
場合トナレリ。坪井司令官ハ第一游撃隊ノ諸艦ニ令シ速力ヲ十四海
里ト爲シテ急進ス。

0708

山口吉野分
隊士海軍記
摘要

吉野分隊士海軍少尉山口銳海戰記中ニ曰ク。午後零時五十分。敵ノ旗艦定遠ヨリ一聲ノ發砲ト共ニ敵艦隊砲撃ヲ始ム。實ニ是レヲ戰鬪ノ開始ト爲ス。距離約五千八百米。突餘敵ハ悉ク克式砲ヲ備フルトテ。此時ハ皆照準ヲ本艦ニ定メツ、牽索ヲ握テ號令ヲ待チ居リシコト見ヘ。彈丸悉ク本艦ニ集中シ來リ。多クハ我艦ヲ去ル數十米突ノ處ニ落チタルモ。或ハ水烟高ク迸リ。或ハ反跳遠ク壁アリ。實ニ一瞬間ニ數十發ヲ數フルニ至レリ。本艦ヨリモ發砲セント云フモノモ多カリシカ。艦長ハ遠距離ニ於テ砲撃スルノ不可ナルヲ説キ。三千米突ニ近付ク迄ハ決シテ發砲スヘカラスト嚴令シ。速力ヲ十四海里ト爲シ。益敵ニ向テ銳進セリ。

第一游撃隊
第一回ノ砲

旗艦吉野砲
撃ヲ開始ス

第一游撃隊ノ應戰ハ四艦一齊ナラスト雖也。孰モ三千米突内外ニ至テ始テ砲撃シタルヲ以テ。其彈丸命中頗ル多シ。旗艦吉野ハ午後零時五十五分。距離三千米突ヲ確測シタル後。右舷砲臺ヨリ發砲ヲ始メ。主トシテ右翼ノ敵艦揚威超勇ヲ激射シテ同五十八分ニ至ル。時ニ一隻ノ敵艦來遠或ハ經遠銳進シ來リ。其意衝突ヲ試ントスルモノ、如シ。乃轉シテ之ヲ猛撃ス。同一時五分ノ頃。揚威超勇ト相距ル僅ニ千六百米突ニ迫リタルヲ以テ。我彈丸概チ虛發無シ。同八分。敵ノ一彈我右舷

敵彈、吉野
ニ命中シ艦
體及兵員
ヲ損傷ス

二番艦高千
穂砲撃ヲ開
始ス

敵彈、高千
穂ニ命中シ
艦體及兵
員ヲ損傷ス
小笠原高千
穂分隊長海
戰記摘要

舷門ノ直後ヲ破リ。後甲板ニ於テ轟發シ。藥筐引上器ニ堆積セル十二
拇藥筐。及彈丸架ニ在リシ二榴彈マ之カ爲メ破裂シ。海軍少尉淺尾重
行及水兵一名ヲ殲シ。九名ヲ傷ケ。且火災ヲ起セシト雖モ。直ニ之ヲ消
滅ス。已ニシテ彼我相過キ。漸ク相離レタルヲ以テ。同一時十四分。砲撃
ヲ中止セリ。二番艦高千穂ハ敵艦ト相距ル四千五百米突ノ距離ニ至
リ。先其旗艦定遠ニ向テ砲撃ヲ始メ。漸次右翼ノ艦列ヲ猛射ス。同九分
ニ至リ。一敵彈我舷外ニ爆裂シテ右舷後部水準線上三呎ノ所ニ二三
孔ヲ穿チ。兵員二名之カ爲メ死傷ス。

高千穂分隊長海軍大尉子爵小笠原長生ノ戰記中ニ曰ク。午後一時九分。一發ノ敵彈右
舷舷外ニ於テ爆發シ。余カ私室ノ舷板ニ尺餘ノ三孔ヲ穿チ。寝具器具衣服等ヲ粉碎シ。
入口ノ戸ヲ破リ。兵員二名ヲ殺傷セリ。而シテ我室前ハ即後部彈藥庫ニシテ。彈藥ヲ堆積
シアリタルヲ以テ。若シ敵彈一間前ニ穿入セハ。不測ノ災ニ罹リシナラシ。又一彈片ハ
火藥庫内ニ入リシト雖モ。一ノ損害ヲモ生セザリシ。然レモ我室前ニ於テ。衣服等ヨリ
發火シテ大事ニ至ラントセシモ。兵士咄嗟ノ間ニボソフテ用意シ。發火ヨリ二分時ヲ
出テスシテ消止メタル莫沈着熟練ノ舉動真ニ感スルニ餘アリ云々。

三番艦秋津洲砲臺ヲ開始ス

敵艦、秋津洲ニ命中シ艦體及兵員ヲ損傷ス

四番艦浪速砲臺ヲ開始ス

第一游撃隊敵ノ右翼ヲ通過シタル

三番艦秋津洲ハ四千米突ノ距離ニ於テ。敵ノ旗艦定遠及鎮遠ヲ第一ノ目的ト爲シ。右舷ヨリ發砲シツ、漸次ニ進ミ。同一時五分。二千米突以内ニ達ス。乃、右舷全砲ヲ以テ猛撃シ。次テ右ニ旋回シテ敵ノ右翼面ニ出ツ。同九分。敵艦二十一號五番砲楯ニ命中シ。海軍大尉永田廉平以下五名ヲ殲シ。九名ヲ傷ク。同十五分。千八百米突以内ニ近キタルヲ以テ。我彈丸ノ命中殊ニ確實ナリ。時ニ敵ノ水雷艇一隻。其艦隊ノ背後ニ尾スルヲ見ル。四番艦浪速ハ同零時五十八分。打方ヲ令シテ砲撃大ニ勉ム。同一時八分。敵ノ巨彈右舷側外一米突ノ所ニ落チ。反跳シテ一番砲臺ノ直下水線部ヲ穿チ。海水翻騰シテ甲板ヲ浸ス。次テ敵ノ右翼來遠形及揚威超勇ノ三艦ヲ猛撃ス。其最近距離ハ二千五百米突ニ至ル。我第一游撃隊ハ斯ク勇戦シテ敵ノ右翼ヲ通過シ。航跡半月形ヲ畫キテ。右方ニ針路ヲ轉シ。敵モ亦之ニ應シテ方向ヲ少シク右方ニ變ス。然レモ速力遲緩ナル右翼ノ揚威超勇ハ。未タ其位置ヲ占ムルニ暇アラ

0711

敵艦揚威、超
勇火災ニ罹
ル

漢納根海戰
報告摘要

朝鮮鎮遠士
官マツギツ
フイン海戰
記摘要

スシテ。我軍ノ猛撃ヲ被リ。二艦俱ニ大火災ニ罹リ。終ニ運動スル能ハ
サルニ至ル。而シテ第一游撃隊ハ尙右方ニ旋回セハ。本隊殿艦ノ砲門ト
相對シ。危険少ナカラサルヲ以テ。故ニ速力ヲ十二海里ニ減シ。同一時
二十分。大圈ヲ畫キテ左方ニ十六點ノ方向變換ヲ行ヒ。我本隊ヲ圈ノ
内方ニ置キテ。反對ノ方向ニ通過セントセリ。

當時定遠ニ乗組メル漢納根ヨリ李鴻章ニ呈出シタル海戰報告中ニ曰ク。兩艦隊間ノ
距離ハ速ニ減縮シ。十二時三十分。清國ノ旗艦ハ五千二百米突ノ距離ニ於テ射撃ヲ開
始セリ。日本艦隊ノ單縱陣ハ方向ヲ變シ。左舷ニ二十二度五ノ角度ヲ取テ來レルハ。余
輩ノ注目シタル所ナリ。清國艦隊ハ依然後翼單梯陣ヲ守リ。敵艦ニ當ラントシテ少シ
ク回轉(右方ニ)セリ。兩艦ノ距離四千米突ト爲ルニ至テ。日本艦隊ハ更ニ方向ヲ轉シ。我
右翼ヲ迂回セントシテ。右舷ニ二十二度五ノ角度ヲ取リ來レリ云々。

朝鮮鎮遠士官マツギツフイン(米國海軍少佐)ノ海戰記中ニ曰ク。日本艦隊ノ愈々近逼スルヲ。殆
ト我レニ二倍ノ速力ヲ以テ。左ヨリ右ニ我前面ヲ横過シタレハ。彼我ノ各艦交。彈丸ヲ打
交ハセリ。日本ノ本隊ハ游撃隊ヨリモ概シテ近ク位置ヲ構ヘ。游撃隊ハ忽チ我右翼ヲ
旋回シテ。翼端ノ諸艦ニ猛烈ノ十字火ヲ與ヘ。超勇揚威ノ二艦最ニ之ニ苦メラレタリ
云々。

0712

本隊敵艦隊
ニ近接ス

是ヨリ先キ本隊ハ第一游撃隊ト殆ト同一ノ航路ヲ取り。漸次敵艦隊
ニ近接スルヤ。敵ハ我第一游撃隊ト一戦ヲ交ヘテ後。其中堅ハ各艦首
ヲ我本隊ニ向ケ衝突ヲ試ミントスルモノ、如ク。斷ヘス發砲シツ、
猛進シ來レリ。然レモ其兩翼ノ數艦ハ運動既ニ亂レテ。陣形參差トシ
テ整齊セス。

漢納根海戰
報告摘要

當時定遠ニ乗組メル漢納根ヨリ李鴻章ニ呈出シタル海戰報告中ニ曰ク。我艦概チ回
轉運動ヲ了リシ時。速力遲緩ナル超勇揚威ノ二艦ハ其位置ヲ占ムルノ暇ナク。敵艦ノ
猛烈ナル射撃ヲ被リ。其一艦ハ續テ少時間射撃ヲ爲シ。左翼ノ致遠。廣甲ノ二艦モ亦殆
ト同一ナリ。日本艦隊ハ四千五百米突ノ距離ニ於テ我艦隊ノ前面ヲ通過シ。孤立セル
義經定遠ノ後方ニ迂回セリ。廣甲ハ少時間艦隊ニ隨テ運動セシカ。漸ク後レテ遠ク後
方ニ在リ。戰鬪ノ末遂ニ復タ此二艦ヲ視サルニ至リシカ。幸ニ安全ヲ得シハ人ノ知ル
所ナリ。我艦隊ハ日本艦隊ニ比スレハ速力遲緩ナルカ故ニ。唯々敵ノ運動ニ隨テ運轉
シ。專ラ我陣形ヲ守リ。終始敵ニ前面スルヲ努ムルニ過キス云々。

本隊砲撃ヲ
開始ス

我本隊ノ六艦ハ一意單縱陣ヲ保チテ直進シ。猛烈ナル發射ヲ開始セ
リ。旗艦松島ハ午後零時五十二分。三千五百米突ニ於テ右舷砲臺ニ獨

0713

敵彈松島ニ
命中シ艦體
及兵員ヲ
損傷ス

高木常備艦
隊航海長黃
海海戰記臆
誌摘要

千代田、嚴島
砲撃ヲ開始
ス

敵彈嚴島ニ

立打方ヲ命シ發砲ス。同五十五分。敵彈(十五冊カ)三十二冊砲臺圍壁ノ
上端ニ命中シ。砲員二名負傷シ。水壓管爲ニ破損セリ。直ニ應急修理ヲ
加ヘ。同五十八分。三千五百米突ノ距離ヲ測リ。定遠ニ向テ三十二冊砲
ヲ放ツ。同一時二十分。七番輕保砲。敵彈ノ爲メ全ク破壊セラレ。其砲員
及近傍ニ在ル信號兵二名死傷ス。

高木常備艦隊航海長ノ黃海海戰記臆誌中ニ曰ク。本隊ト敵艦隊トノ交戦ハ彼ヨリ數
分間前ニ於テ猛烈ナル砲撃ヲ被リツ、アリシモ。此前司令長官ハ適宜ノ距離ニ至ラ
ハ發砲セヨト命令セリ。松島艦長尾本大佐ハ斯ル遠距離ノ發砲ハ彈丸ノ命中保シ難
キヲ悟リ。正シク三千五百米突ノ報告ヲ得テ發砲ノ號音ヲ下セリ。此數分時ノ間兵員
ニ充分ノ勇氣ヲ貯ヘ。一時ニ憤激ヲ晴ラサシメシヲ以テ。最。猛烈ナル發砲ヲ行ヒ。從テ
彈丸ノ命中モ期スル所ニ違ハス。大ニ敵ノ勢力ヲ減殺セリ。是レ司令長官ノ命令周到
ナルト。艦長尾本大佐ノ耐忍能ク其機ニ適セシトニ由リテ其效モ亦大ナルカ如シ。

二番艦千代田ハ同一時砲撃ヲ始メ。同六分進テ千七百米突ニ接近シ
テ猛撃セリ。三番艦嚴島ハ同零時五十五分發砲ヲ始メ。敵艦ト相距ル
五千米突ヨリ千八百米突マテ進テ猛撃ス。而シテ同一時ノ頃。敵彈二十

0714

命中シ艦體
及兵員ヲ
損傷ス

橋立砲臺ヲ
開始ス

敵彈橋立ニ
命中シ艦體
及兵員ヲ
損傷ス

比敵砲臺ヲ
開始ス

比敵單獨ニ
テ敵艦隊中
ニ突入ス

一珊)右舷發射管室ヲ撃チ。下士卒十一名ヲ殺傷シ。大損害ヲ與ヘタルヲ以テ。釣床五個ヲ用井一時ノ應急防水ヲ爲ス。同五分。又敵ノ一彈(十五珊)右舷側ヲ穿テ。後部汽罐室内ニ爆裂シ。海軍少機關士松澤散讓及卒五名ヲ殺傷ス。四番艦橋立ハ同零時五十八分。發砲ヲ始シニ。同一時十分。敵彈飛來。テ其三十二珊砲臺ニ命中シ。海軍大尉高橋義篤同瀨之口覺四郎及下士一名ヲ殲シ。七名ヲ負傷セシム。而シテ敵ノ中艦タル定遠(若クハ鎮遠)來遠(若クハ經遠)ノ二隻其艦尾ニ突進シ來レリ。五番艦比叡ハ同一時八分。始テ右舷追撃砲ヲ放チ。同十分。二千五百米突ノ處ニ至。テ。右舷側砲ヲ發射シテ兩陣漸ク接近ス。而シテ同十四分ノ頃。其前續艦タル橋立ニ後ル、千三百米突ニ至ルヤ。敵ノ後翼單梯陣ノ角點ニ在ル定遠(若クハ鎮遠)來遠(若クハ經遠)ノ二隻ハ好機乘スヘシト爲シ。急ニ舵ヲ轉シテ猛然其右舷ニ薄リ衝突ヲ試ミントス。比叡艦長乃意ヲ決シテ單獨陣列ヲ離レ。最大ナル回轉力ヲ以テ。定遠(若クハ鎮

遠ト來遠(若クハ經遠)トノ中間ニ突入シ。左舷ニ敵ヲ受ケ。彈丸雨ノ如シ。我兩舷ノ砲員殊死シテ戰フ。是時定遠若クハ鎮遠ハ左舷約千米突ノ處ヲ通過シ。來遠(若クハ經遠)ハ右舷正横四百米突ノ近距離ニ迫リ。衝突ヲ爲サントシテ。其前部ニ襲撃隊ヲ呼集ス。比叡之ヲ見テ機關砲ヲ以テ急速射撃ヲ行ヒ。殆ト其襲撃隊ヲ鑿殺ス。來遠(若クハ經遠)逡巡シテ更ニ我ニ向テ魚形水雷ヲ發射セシト雖也。轉舵ノ爲メ水雷ハ空シク艦尾ノ後方七米突許ノ處ヲ通過セリ。已ニシテ揚威若クハ超勇ハ我右舷四百米突。廣甲ハ我右舷千米突ノ近距離ニ在リ。超勇(若クハ揚威)モ亦我左舷五百米突ノ處ヲ通過シテ各射撃ヲ加フ。比叡益奮テ之ニ應砲シ。彈丸皆克ク命中ス。然レモ敵ノ合圍中ニ陥リ。四方ヨリノ猛撃ヲ受ケタルヲ以テ。艦體帆檣綱具ニ至ルマテ概チ破壊セラレタルモ少セ屈セス。突貫ヲ試ミ以テ脱セントスルノ際。本隊ノ已ニ敵軍ノ外方ヲ旋リテ。左ヨリ右ニ經過セントスルヲ望ミ。之ニ合セント欲

0716

敵艦比敵ニ
命中シ艦體
及兵員ヲ
損傷ス

マクギツフ
イン海戦記
摘要

シテ。敵艦扶桑ノ後方ニ進ム。時ニ敵艦定遠、鎮遠及來遠（若クハ經遠）ノ三隻追撃シ來リ。其發射セル三十珊半ノ榴彈我右舷々側ヲ貫キ。後櫓ニ中リテ破裂シ。下甲板後部全般ヲ破壊シ。火災ヲ起セシヲ以テ。直ニ之ヲ消止メタリ。此一戰ニ於テ大軍醫三宅貞造、大主計石塚鑄太、少軍醫村越千代吉及下士卒十七名戰死シ。海軍大尉高島萬太郎、海軍少尉田中行尙、同小川水路及下士卒三十二人負傷セリ。

當時鎮遠ニ乗組メルマクギツフインノ海戦記中ニ曰ク。前略日本本隊ノ敵艦比敵ハ殆ト定遠ノ面前ニ來リ。定遠ノ左ナル致遠ニ猛撃セラレ。而モ該艦ト同列前續艦トノ間益、遠隔シタルヲ以テ。其艦長ハ此遲足ノ老艦到底倭艦ト列ヲ保ツ能ハス。且、早ヤ火災ニ罹リタレハ。進路ヲ維持シテ兩甲鐵艦ヲ始メ經來。靖ノ諸艦ニ雨注セラルハ。テ危フミ。大膽ニモ意ヲ決シテ兩甲鐵艦ノ間ナル捷徑ヲ取り。背面ニ出テハ。倭艦ニ合セント企テタリ。而ソ此目的ハ花々シク仕遂ケラレキ。蓋、比敵ノ我陣ヲ衝テ闖入スルヤ。余等ハ水準射撃ヲ以テ之ヲ逸ヘ。正鵠ヲ逸スルカ如キハ萬々有ルヘカラス。忽チ比敵後甲板及ヒブローアヨリ煙ヲ噴出シテ。高ク後櫓ニ飛揚シ。同時ニ又艦内喧擾ヲ極メテ暴レ廻ルヲ見ル。余等ハ以爲ラク。一發ノ彈丸能ク一方ノ艦首ヨリ對側ノ艦尾マテ對角線狀ニ串射シテ。彼レカ生命ヲ奪ヒ得タラント。惜哉是レ若シ填藥シタル榴彈ナリセハ。

扶桑砲臺ヲ
開始ス

扶桑敵艦ノ
爲ニ發火ス

赤城砲臺ヲ
開始ス

此想像ハ實施セラレタランモノヲ。余ハ遺憾ナカラ告白セサルヲ得ス。清國艦隊ハ實ニ此時ヨリ陣形錯亂シタルヲ云々。

六番艦扶桑ハ同一時三分。敵ト三千米突ノ距離ニ於テ發砲ヲ開始シタルニ。同二十分ニ至リ。定遠(若クハ鎮遠)來遠(若クハ經遠)ノ二隻發砲ヲ止メ。全速力ヲ以テ疾駛シテ衝突シ來ルヲ見テ。急ニ之ヲ亂射スレモ屈セス。(是時前續艦比叡ハ兩敵艦ノ中間ニ突入ス。定遠(若クハ鎮遠)猛然已ニ我右舷七百米突ニ迫ル。乃チ全速力ヲ以テ艦首ヲ左方ニ轉シテ之ヲ避ケ。敵艦ノ要部ニ向テ痛撃ヲ加フ。此危急ノ際。右舷後甲板釣床格納所敵彈ノ爲ニ發火シ。同二十四分。消滅スルヲ得タリ。同時海軍少尉丸橋彦三郎。同内崎德負傷ス。又軍艦赤城ハ西京丸ト共ニ本隊ノ左側ニ在リシカ。同一時九分。發砲ヲ始メ。右舷ナル定遠鎮遠ノ二艦ト對戰頗ル勉ム。然レモ艦ノ速力本隊ニ續行スルニ堪ヘスシテ。知ラス識ラスノ間ニ孤立ノ地ニ立テリ。既ニシテ兩軍相接シ。敵ノ來遠(若クハ經遠)及其左翼ノ諸艦ハ同二十分頃。我比叡ヲ逸シテ馳突シ

赤城艦長戦死ス

赤城苦境ニ瀕ス

來リ。其距離僅ニ八百米突ニ近キタルヲ以テ。之ニ對シ猛烈ナル射撃ヲ行ヒ。來遠若クハ經遠ヲシテ艦橋上人無キニ至ラシム。是時敵彈ノ爲メ後砲臺ヲ指揮セル海軍大尉佐々木廣勝負傷シ。前檣樓ニ在リシ海軍少尉候補生橋口戸次郎戰死ス。因テ海軍少尉兼子昱、佐々木大尉ニ代ル。同二十五分。艦尾ヲ通過セル敵ノ諸艦ヨリ放ツ所ノ彈丸艦橋ニ中リ。艦長海軍少佐坂元八郎太及。一番速射砲員二名戰死シ。二名負傷セルヲ以テ。海軍大尉佐藤鐵太郎艦長ニ代テ戰ヲ督ス。次テ前部下甲板ニ中リシ敵彈ハ。前部彈庫及。防火隊員四名ヲ殪シ。一名ヲ負傷セシメ。蒸氣管ヲ破壊シ去リ。又前部上甲板ニ破裂セル他ノ一彈ハ。唧筒砲員二名。捕索手一名ヲ殪セリ。已ニシテ敵艦來遠若クハ經遠致遠(若クハ靖遠)及。廣甲ノ諸艦追撃シ來ルモ。蒸氣管破壊ノ爲メ前部砲彈藥供給ノ杜絶ト速力減少トニ由テ。進退殆ト谷マルノ苦境ニ瀕セリ。故ニ突然艦首ヲ右方ニ轉シ。敵艦ト稍遠サカリタルヲ機トシテ應急修

0719

西京丸砲撃
ヲ開始ス

敵彈西京丸
ニ命中シ上
甲板ヲ破壊
ス

本隊敵前ヲ
通過シ右方
ニ轉シテ其
背後ニ出テ
ソトス

敵ノ隊列錯
亂シテ陣形
ヲ存セス

理ヲ施シ。甚シク速力ヲ減セサルヲ得タルモ。敵ノ諸艦愈々速力ヲ高
メ追躡シ來リタルヲ以テ。已ムヲ得ス。針路ヲ南方ニ轉シ。急ニ艦尾
諸砲ヲ連發シテ防戰スルノ際。敵彈數個大櫓ヲ倒壞シ去レリ。因テ直
ニ軍艦旗ヲ前櫓ニ掲ケ。補索手員ヲシテ壞斷セル大櫓頂ニ旗竿ヲ立
テシメタリ。巡洋艦代用西京丸ハ軍艦赤城ト共ニ本隊ノ左側ニ在リテ。
同一時九分。三千米突内外ノ距離ニ於テ打方ヲ始メシカ。同十四分。敵
彈(定遠若クハ鎮遠ヨリ發砲セシモノナラン)上甲板士官室ヲ貫キ。其
附近ナル上甲板及諸室ヲ破壊シテ。左舷々外ニ墜下セリ。
此ノ如ク我本隊諸艦ハ奮戰シテ敵ノ艦隊前面ヲ通過シ。漸次右方ニ
轉シテ其背後ニ出テントスルノ運動ヲ爲ス。(第二圖參觀)而シテ清國艦
隊ハ屢々針路及方向ノ變換ヲ行ヒ。專ラ艦首砲ヲ以テ我ヲ制セント勉
メタルカ如シト雖モ。其隊列益々錯亂シテ各艦各個ノ運動ヲ爲シテ。終
ニ陣形ヲ存スルヲ能ハサルニ至レリ。

0720

當時定遠ニ乗組メル漢納根ヨリ李鴻章ニ呈出シタル海戰報告中ニ曰ク。余カ當初ノ乘艦ニ於テ。我艦隊運動ノ狀況ヲ詳ニスルノ機會ヲ得タリ。而シテ余カ見ル所ヲ以テスレハ。數多ノ缺點中其重ナルモノハ。新定秘密信號法典ノ不完全ナルニ在リ。一艦隊十二隻ヲ指揮スル繁雜ノ急務ニ臨ミテ。毫モ其所要ニ應セサルナリ。諸艦ノ速力及ビ吃水積ハ甚相異ナルカ故ニ。運動ニ臨ミテ精確ニ陣形ヲ變シ。細密ニ位置ヲ守ルノ難キモ。亦余ノ實見シタル所ナリ。此不便ハ信號ノ困難ナルカ。若クハ之ヲ解セントスル用意ノ足ラサルニ因リテ。尙一層ノ重キヲ加ヘタリ。然レモ余輩ハ常ニ出航ノ準備ヲ怠ルヘカラサルカ故ニ。我艦隊ノ乘員ヲシテ新定ノ信號法典ニ習熟セシムルノ暇ナク。強テ之ヲ守ラシメント欲セハ。更ニ一層ノ煩雜ヲ來スヘキ恐ラルヲ以テ。余ハ之ヲ變更セサルニ決セリ。

余ハ我艦隊ヲ組織スル十二艦ヲ以テ。一艦隊ヲ形成スルモノト看做サス。之ヲ各個獨立ノ戰艦ト看做シタルハ。此理由ノ然ラシムル所ナリ。蓋平時ニ於テハ提督一人ノ令下ニ統轄シ得ルモ。戰鬪間ハ險ヲ冒シテ各個ニ動作セサルヘカラサレハナリ。故ニ艦長ノ接手シタル戰鬪ノ訓令ハ左ノ旨意ニ基ケリ。

第一、形式同一ノ諸艦ハ協同動作シテ互ニ相援助スルヲ努ムヘシ。

第二、終始敵ニ艦首ヲ向ケ位置スルヲ以テ基本戰術ト爲スヘシ。

第三、諸艦ハ及フヘキ限リ旗艦ノ運動ニ從フヘシ。

九月十七日。我艦隊敵艦隊ト相對シタル時ハ。二縱陣ヲ布キテ前進シ。其後單縱陣ト爲

捕虜水雷艇
福龍號管帶
ノ口述摘要

敵艦超勇ノ
沈没

リシカ。提督ラン(林彪)ノ勸告ニ從テ後翼單梯陣ヲ取レリ。然ルニ敵ハ我右翼ヲ迂回シ。右舷ニ二十二度五ノ角度ヲ取リテ來ルヲ以テ。速ニ此陣形ヲ變セサルヘカラサルニ至レリ。敵艦陣形ヲ變シタル時。定遠號ノ一發忽チ戰闘ヲ開始シ。其後我艦ハ復タ一モ信號ヲ爲サス。最初發射シタル敵彈ノ一個。我旗艦ニ中リテ舵機室ヲ破壊シ。舵手二人ヲ殺シ。且、該艦ノ航類概ネ此彈丸ノ爲ニ燒失セリ。故ニ我諸艦ハ敵ノ包圍運動ニ遇フテ。最初ノ陣形紊亂シテ後ハ。各個專斷ノ運動ヲ爲サルヘカラサルハ怪ムニ足ラサルナリ。形勢此ノ如シト雖也。我諸艦ハ戰闘ノ最初半期間能ク規定ノ三則(按スルニ前記ノ三項ナラン)ヲ守レリ。然ルニ敵ハ回轉運動ヲ繼續スルヲ以テ。我諸艦ハ遂ニ全ク第三則ヲ守リ難キニ至リ。且、我陣形ハ間斷無ク之ヲ變更セサルヘカラサルヲ以テ。我序列大ニ亂レ。味方ノ諸艦却テ我射撃ノ妨害ト爲ルヲ數回ニ及ヘリ云々。

捕虜清國水雷艇福龍號管帶都司蔡廷幹ノ口述ニ曰ク。此海戰ニ於テ我軍ノ苦境ニ陷リシ重ナル原因ハ。艦隊ノ陣形不適當ナリシカ爲メ。左翼ノ各艦ハ充分ナル砲撃ヲ爲スト能ハサリシト。砲彈ノ爲メ信號索ヲ切斷セラレ。旗艦ハ信號ヲ以テ全艦隊ノ運動ヲ指揮スルヲ能ハサリシトニ據ルト思ヘリ。

敵艦揚威超勇ノ二隻ハ我猛烈ナル砲撃ヲ被リ。午後一時五分頃。孰レモ火災ヲ起シ。殊ニ超勇ハ艦體右舷ニ傾向スルモ。猶前部ノ發砲ヲ止メサリシカ。火勢愈猛熾ト爲リ。同三十分前後ニ至リ。終ニ沈没セリ。

0722

高木常備艦
隊航海長黃
海海戰記臆
誌摘要

平遠、廣丙、敵
ノ艦隊ニ加
ハラントス

伊東司令長
官第一游撃
隊ヲ招ク
游撃隊再
左十六點ニ
方向ヲ變ス

高木常備艦隊航海長ノ黃海海戰記臆誌中ニ曰ク、敵艦超勇ヲ距ル約三百米突位ノ處
ヲ通過セシニ、同艦ハ火災ヲ起シ機械ノ運轉ヲ停止シ、進退自由ナラス。乗員ノ過半數
以上ハ海中ニ投シ、海岸ヲ指シテ游泳遁逃スル者ノ如シ。恰モ暑中港内ニ於テ兵員ニ
水泳ヲ許セシ時ニ異ナラス。之ヲ換言スレハ數百ノ南瓜ヲ海中ニ投セシカ如ク、頭部
計ヲ出シテ點々浮ミ居タリ。而シテ本隊ノ此所ヲ通過スルノ際、其救助ヲ求ムルノ切ナ
ル。日本水兵サント呼フモノアリ。或ル士官ヲシキ一人ハ急ニ反對ノ方ニ向キテ換ヘ
テ遠サカルモアリ。又同艦ニ殘留セシ兵員ニシテ本艦ニ向ヒ小銃ヲ發射セシ者アリ。
超勇ノ將ニ沈没セントスルヤ、陸地ノ方ヨリ平遠、廣丙及一二ノ水雷
艇來テ敵隊ニ加ハラントス。第一游撃隊ハ既ニ述フルカ如ク、敵艦隊
ノ右翼ヲ旋リ、左方ニ大圈ヲ畫キ十六點ノ方向變換ヲ爲シ、本隊ヲ敵
ト我トノ中間ニ見テ反對ノ方向ニ通過セントスルノ際、(第三圖參觀)
同一時三十分ノ頃、本隊旗艦松島ヨリ「第一游撃隊來レト」ノ信號アリ。
是ニ於テ再、左十六點ニ方向ヲ變シ、速力ヲ十五海里ニ増シ、本隊旗艦
松島ニ竝ハント欲ス。然レモ本隊ハ此間徐々トシテ右方ニ轉シツ、
アルヲ以テ、大速力ナル第一游撃隊モ時ヲ費サ、レハ之ト竝フヲ能

0723

游撃隊速力
ヲ減ス

游撃隊第二
回ノ砲撃ヲ
開始ス

西京丸、比
敵、赤城ノ
危険ヲ信號
ス

比敵火災ノ
爲メ隊外ニ
出ツ

ハス。故ニ已ムヲ得ス之ヲ斷念シ。速力ヲ十海里ニ減シ。更ニ本隊ノ
後尾ニ續航スルノ方針ニ變セリ。而シテ軍艦吉野ハ同二時九分。敵艦ヲ
右舷三千米突ニ望ミ。第二回ノ砲撃ヲ爲ス。軍艦秋津洲ハ同一時四十
二分。先一彈ヲ放チ。次ヲ同二時。五千米突ノ距離ニ於テ兩回獨立打方
ヲ爲シ。猶二千八百米突内外ニ進テ大ニ轟發セリ。已ニシテ吉野漸ク
本隊ノ六番艦扶桑ニ近カントスルニ方リ。左舷後方ニ在リシ西京丸
ヨリ「比敵、赤城危険」トノ信號ヲ揚ク。

是ヨリ先キ軍艦比敵ハ敵隊ヲ突貫シテ。已ニ本隊殿續艦ナル扶桑ニ
接近セントスルヤ。餘燼ヨリ再火災ヲ起シ。其位置機關及小銃彈藥庫
ニ近キカ爲メ。乗員ノ半數ヲ以テ消防ニ從事セシメ。且艦内彈藥供給
ノ途杜絶シテ殆ト戦闘力ヲ失ヒタルヲ以テ。同二時。本艦火災ノ爲メ
列外ニ出ツトノ信號ヲ爲シ。隊外ニ出テ南西ニ向テ航駛ス。時ニ軍艦
赤城モ亦敵ノ重圍ヲ脱シ。比敵ニ次キテ逃ル。敵艦來遠(若クハ經遠)以

赤城ノ砲撃
來遠ニ火災
ヲ起サシム

赤城重圍ヲ
脱ス

遊撃隊左十
六點ノ方向
變換ヲ爲シ
大速力ヲ用
フ

下二三艦之ヲ見テ追撃シ。同十五分ノ頃ニハ。赤城ノ後方三百米突内
外ニ薄リ。敵彈其艦橋ニ中リ。艦長ニ代リテ戰ヲ督セル佐藤大尉ヲ傷
ク。海軍大尉松岡修藏之ニ代リ。海軍上等兵曹進藤多榮治松岡大尉ニ
代リ前砲臺ヲ指揮ス。同二十分。其艦尾四番砲ヨリ發スル所ノ彈丸來
遠(若クハ經遠)ノ甲板ニ命中シ。猛烈ナル火災ヲ起サシメタリ。是ニ於
テ敵艦之ヲ救ハンカ爲メ。速力ヲ減シテ其周圍ニ集リタルヲ以テ。赤
城僅ニ虎口ヲ脱シ。敵艦ヲ距ル七八百米突ノ處ニ達スルヲ得タリ。
是レ西京丸カ比叡。赤城危險トノ信號ヲ掲ケタルト殆ト同時ニシテ。
第一游撃隊ハ之ヲ目撃スルニ及テ。本隊ニ續航セントスルノ企望ヲ
中止シ。比叡。赤城ノ兩艦ヲ救ハント欲シテ。直ニ左方十六點ノ方向變
換ヲ行ヒ。(第四圖參觀)大速力ヲ用非。赤城ト敵艦隊トノ中間ニ向フ。西
京丸ハ同二時十五分。比叡。赤城危險ノ信號ヲ掲ケタル後。敵艦定遠。鎮
遠其他三隻ノ爲ニ追躡セラレ。三十冊半ノ巨彈二百米突内外ノ近距

西京丸舵ニ
故障アリノ
信號ヲ掲ク

西京丸敵艦
平遠廣丙ト
戦フ

離ヨリ跳飛シ來テ「サルーン」ノ右舷側ヲ洞シ「サルーン」ト機械室トノ
中間ニ於テ炸發シ。之カ爲メ同室及其近隣數室「スカイライト」并ニ「ハ
ッチ」等ヲ崩壞シ。最上甲板ヲ貫キ。舵機ニ通スル蒸氣管ヲ破リタルヲ
以テ。蒸氣舵機頓ニ其用ヲ失ヘリ。因テ直ニ「我舵故障アリ」ノ信號ヲ掲
ケ。第一游撃隊及本隊ト別レ。豫備索ヲ用井タルモ操縦意ノ如キヲ能
ハサルヨリ。速力ヲ減シ「ハンドホイール」ヲ用意シ。更ニ全速力ヲ以テ
前進スルニ及ビ。又右舷約二千米突ノ距離ヨリ敵ノ艦隊ニ狙撃セラ
レ。飛彈一個右舷後部水線部ヲ貫ケリ。故ニ木栓ヲ填シテ水ヲ防キタ
ル後チ。側板ノ裡面ニ假ニ鐵板ヲ張り「セメント」ヲ充塞シ纔ニ海水ヲ
禦キ。猶進航セリ。同四十分ニ至リ。敵ノ砲艦二隻（平遠廣丙）并ニ巡航水
雷艇三隻前方ヨリ襲ヒ來リタルヲ以テ。先水雷艇ニ向テ劇シク砲撃
ヲ加フ。彼狼狽急ニ艇首ヲ變シ。彼我艦隊激戦ノ砲煙中ニ逃ル。次テ砲
艦二隻ト五百米突内外ノ距離ニ於テ交戦シテ相通過セシニ。敵ノ艦

0726

敵ノ水雷艇
西京丸ヲ襲
フ

西京丸假根
據地ニ向フ

捕虜水雷艇
福龍號管帶
ノ口述摘要

游撃隊第三
回ノ砲撃ヲ
開始ス

首ヨリ更ニ一隻ノ水雷艇進ミ來ルヲ認メ。艦首ニ備ヘアル十二吋砲
ヲ放ツト雖モ。五回迄發スルヲ得ス。彼之ニ乘シテ其艇首發射管ヨ
リ水雷ヲ發射セシモ。我左舷ヲ少シク離レテ通過シ。再其旋回發射管
ヨリ。我左舷艦首約四十米突ノ近距離ニ於テ。水雷ヲ發射セシモ。空シ
ク艦底ヲ潛過セシヲ以テ。事無クシテ戰域ヲ出ツルヲ得テ。假根據
地ニ向ヘリ。

捕虜清國水雷艇福龍號管帶蔡廷幹ノ口述ニ曰ク。當日自分ハ福龍號ニ在テ西京丸ニ
近接シ。距離五百米突ヨリ三十米突ノ間ニ於テ。三回水雷ヲ發射セシト雖モ。遂ニ效ヲ
奏スルヲ能ハス云々。

又第一游撃隊ハ軍艦比叻赤城ノ危急ヲ救ハント欲シ。左轉シテ敵ヲ
左舷ニ望ミ。反對側ニ在テ敵ヲ右舷ニ望メル本隊ト約六千米突ヲ隔
テ。夾撃ノ勢ヲ爲ス。第五圖參觀旗艦吉野ハ同二時三十五分。三千米
突ノ距離ニ於テ第三回ノ砲撃ヲ始メ。敵ノ縱列ト反航シテ其前續艦
ヨリ順次猛烈ナル射撃ヲ爲ス。時ニ敵ノ一水雷艇ヲ左舷艦首二千八

浪速前續艦
ト離レ敵艦
三隻ニ迫撃
セラル

百米突ニ認メタルヲ以テ。大ニ備フル所アリシト雖。終ニ左舷約千
五百米突ノ所ヲ通過セリ。是ヨリ砲戰最烈シ。軍艦高千穂ハ同三十分。
三千米突ノ距離ニ於テ敵艦ニ向テ猛撃ヲ加ヘ。又水雷艇一隻ヲ認メ。
機砲ヲ以テ之ヲ亂射ス。軍艦秋津洲ハ同三十六分。四千五百米突ノ距
離ニ於テ砲撃シ。進テ一千五百米突ニ接近ス。是時敵彈「ブーッデッキ」
ヲ掠メ。砲臺下士一名ヲ傷ケタリ。軍艦浪速ハ左轉セントスルノ際。西
京丸左側ニ在テ。我レ舵機ヲ損スト。トノ信號ヲ掲ケツ。艦首ヲ通過セン
トス。因テ暫ク停止シ。其横過スルヲ待チタルヲ以テ。前續艦ト遠ク離
レ。殆ト孤立スルニ至レリ。故ニ全速力ヲ以テ之ニ追及セントスルニ
方リ。敵艦定遠、鎮遠、靖遠(若クハ致遠)漸々接近シテ二千米突ニ迫ル。故
ニ應戰尤勉ム。又敵ノ水雷艇突進シ來ルヲ認メ。機砲ヲ以テ亂射セリ。
第一游撃隊ノ此戰ニ對シテ。敵ノ前半隊ハ右先鋒梯陣ノ如キ陣形ヲ
以テ我ニ迫リ。其後半隊ハ軍艦赤城比叡ヲ見捨テ引返セル數艦ト合

シ。單縱陣ヲ以テ我ヲ砲撃シツ、通過セリ。此前後ニ在、テ比叡ハ來遠
 (若クハ經遠)外二隻ノ追撃スル所ト爲リシモ。戰場ヲ距ル七八海里ニ
 及、テ殆ト戰鬪力ヲ恢復シタルヲ以テ。再、本隊ニ加ハラント欲シ。針路
 ナ變シテ戰場ニ向ヒシカ。時已ニ薄暮ニ際シテ。彼我ヲ辨識スルヲ能
 ハス。且、軍醫及看護手盡ク死傷シテ。負傷者ニ治療ヲ施スモ、無キヲ
 以テ。已ナ得ス復、針路ヲ變シテ假根據地ニ還レリ。赤城ハ同二時三十
 分。敵艦ヲ距ル既ニ遠キヲ以テ。速力ヲ緩メ、蒸氣管ノ修繕ヲ卒ヘ。同五
 時五十五分ニ至リ。再、本隊ニ合セリ。

是ヨリ先キ本隊ハ敵ノ右翼ヲ旋回シテ漸々右方ニ轉シタルカ。即、第
 一游撃隊カ軍艦比叡、赤城ヲ救ハントシテ左轉セル時ナリ。右舷ニ在
 リシ敵艦隊ト距離遠キニ過クルヲ以テ。一時打方ヲ中止シ。稍、接近ス
 ルニ及、テ再、開戦セリ。旗艦松島ハ同二時二十六分。第二回ノ戦ヲ開キ。
 其三十二番砲ヲ轟發シタルニ。正、ニ鎮遠ノ前部ニ命中セリ。此際新、ニ

本隊第二回
 ノ砲撃ヲ開
 始ス

井手松島分
隊士報告摘
要

敵軍ニ加ハリタル平遠ノ我前面ヲ通過セントスルヲ見テ。他ノ諸艦ト共ニ之ヲ射撃セシカ。同三十四分。平遠ヨリ放タル二十六珊砲一彈其左舷士官次室(下甲板治療室)ニ命中シ。掌水雷長要具室ヲ貫キ。左舷發射管員四名ヲ殲シ。三十二珊砲臺ニ中ヲ爆發ス。

松島分隊士海軍少尉井手篤行ノ報告中ニ曰ク。午後二時半頃。敵艦平遠一隻本艦隊ニ向ヒ來リ。本艦ニ對シ將ニ衝突セントスルノ狀況アリトノ報アリ。暫時ニシテ兩舷發射用意ノ令アリ。是ニ於テ再發射管全員ヲシテ發射管ニ就カシメ。發射用意及。旋回用意ヲ爲シ。後令ヲ待ツ。待ツテ四十五分。敵艦(敵艦平遠前砲臺ヨリ發セシモノニシテ。二十六珊砲臺ニ發射ナラン)。二發轟然左舷士官次室(此時下甲板治療所ニ充テラル)ヲ穿入シ。掌水雷長事務室ヲ通シ。左舷水雷發射管ノ下ヲ通過シテ。油槽二個ヲ破壊シ。三十二珊砲臺堡ニ着弾破裂シタリ。此時左舷發射管員一番竹内道治重傷ヲ負ヒ。二番河野三代吉三番北村常吉六番德永虎一ハ頭部ヲ擊破セラレテ斃ル。其肉血四方ニ散布シ。甚慘毒ヲ極ム。本官此時其近邊ナル水雷方位盤ニ通スル聲管口ノ傍ニ在リシカ。敵彈通過スル勢ノ爲メ。右舷發射管ノ傍ニ吹倒サレ。一時精神恍惚タリ。左舷發射管員直ニ來テ扶助ス。回顧スレハ全身死傷者ノ肉血ヲ以テ覆ハレ。左脇及。左足ニ負傷セリ。乃。負傷者運搬手ヲ呼ヒ。竹内道治ヲ前部病室ニ送り。後。前部砲臺敵彈爆發ノ際氣息絶ス。河野三

0730

代吉北村常吉、徳永虎一ヲ毛布ニ包ミ、之ヲ舷側ニ置ク。後、海中ニ葬ル。同時左舷發射管ノ電纜切斷セラレ、中央ニ平置セル左舷側水雷ノ機室ヲ破損シ、外面處々打撃ノ痕跡ヲ現シ、實用ニ適セサルニ至ル。右舷發射管ノ一發東郷仙助ヲシテ電纜ヲ接続セシメ、水雷工永田幸熊ヲシテ破損水雷ノ空氣ヲ抜カシム。

午後三時十分、又平遠ヨリ發セシト覺シキ四十七密砲一彈其左舷中央水雷室上部ヲ貫キ、大橋下部ニ中、ヲ爆發シ、其左舷發射管員二名ヲ殞セリ。軍艦千代田ハ同一時四十七分、三千五百米突ノ距離ヲ測リ、ヲ打方ヲ始メ、四千三百米突ニ遠サカリ。又近キヲ三千五百米突ニ至ルマテ間斷ナク發砲シ、一旦中止シテ、同二時三十五分、更ニ平遠ニ向、テ二千五百米突、或ハ二千二百米突ノ距離ヲ以テ砲撃セリ。軍艦嚴島モ他艦ト相前後シテ發砲セシカ。同一時二十分以後ニ於テ敵彈數個ヲ被レリ。軍艦橋立ハ同二時十五分、平遠ニ向、テ發砲シ、同三十一分、軍艦扶桑モ亦發砲ノ際、敵彈飛來、烟突ノ下ヨリ左舷十七拇、砲臺ヲ貫キ、砲員一名、信號兵一名即死セリ。

敵艦隊苦境
ニ陥ル

マクギツフ
イソ海戦記
摘要

以上述べフルカ如ク。本隊ノ攻撃ハ第一游撃隊ト相應シテ。右ニ六隻左ニ四隻ノ敵艦ヲ夾撃セルヲ以テ。其勢ハ大ニ敵ヲシテ苦境ニ陥ラシメ。平遠、來遠、揚威ハ火災ヲ起シ。廣丙ハ陸地ノ方ニ逃走シ。揚威ハ大孤山沖ヲ望ミ全速力ヲ以テ逃レシカ。後終ニ淺瀬ニ乗揚ケタリ。

當時鎮遠ニ乗組メルマクギツフイソノ海戦記中ニ曰ク。一面ニハ日本本隊ノ各艦單縱陣ヲ維持シテ序列整々タリ。之レカ反對側ニハ游撃隊ノ諸艦精銳ヲ盡シテ攻合ヘリ。斯クテ我軍ハ砲火中ニ板夾ミノ姿ト爲レリ。又曩ニ本隊ノ我右翼ヲ旋回シテ方向ヲ一變スルヤ。兩甲鐵艦モ亦轉廻シテ鋒ヲ敵ノ先鋒艦ニ保チ。鎮遠ノ旗艦ニ對スル配置及ヒ間隔ハ。終始依然タリ。蓋日本艦隊ハ此際兩巨艦ノ能ク其位次ヲ保チシ事。且夾撃セラハ。ニ方テハ。鎮遠ノ巧妙ナル運用ト射撃トニ因テ定遠ヲ掩蔽シ。以テ味方艦隊ノ壊滅ヲ免レシメタル技能ヲ目撃セシナラム。今ヤ本隊ハ爾餘ノ我四艦ヲ顧慮セサルモノ、如ク。五隻舉テ兩甲鐵艦ヲ合圍シ。榴彈ヲ雨注セシヲ以テ。爲ニ火災ヲ發セシ。再三ナラス。左レモ一回ノ危カリシ場合ヲ除ケハ。格別ノ困難無シニ消防シタルソ幸ナル。敵艦ノ或者ハ「メリナイト」榴彈ヲ用カシト見ヘ。其毒色ノ煙ハ一目シテ普通ノ火藥ヨリ區別シ得タリ。又敵ノ一艦ハ一時「方位艦」一舷打方ヲ行ヘリ。是レ目的物ニ向テ一舷側ノ全砲ヲ照準シ。一條ノ電路ヲ通シテ各砲臺ヲ連絡シ。咄嗟電鎗ヲ押シテ幾多ノ

0732

砲彈ヲ一齊ニ放ツノ法ナリ。疑モ無ク此法ハ艦ノ構造ニ幾分カ有害ナルニモセヨ。之レ
カ爲メ一時ニ多數ノ彈丸ヲ雨注シ。又屢火災ヲ起シテ。余等ヲ煩悶ニ堪ヘサラシメタ
ルヨリ考フレハ。最著効ヲ呈セシモノト謂フヘシ。敵ノ合圍運動ノ爲メ我序列ノ錯亂
スル際。致遠ハ余等ノ背後ヲ經テ來遠及右翼ノ殘艦ニ合セリ。平遠及廣丙ハ此時已ニ
沖合ニ出テ、赤城、西京丸ヲ脅迫セシカ。忽信號旗ハ松島ノ檣上ニ掲ケラレ。游撃隊ハ
之ニ應シテ回航シ。危殆ニ瀕セル二艦ヲ掩護セント努メタリ云々。

游撃隊左十
六點ノ旋回
ヲ行ヒ速力
ヲ減ス
游撃隊右八
點ニ方向ヲ
變換シ更ニ
速力ヲ減シ
テ本隊ト十
字放火ヲ爲
サント企ツ
游撃隊第四
回ノ砲撃ヲ
開始ス
敵艦定遠大
火ヲ發ス
敵艦致遠沈
沒ス

既ニシテ第一游撃隊ハ午後二時五十四分。左方ニ十六點ノ旋回ヲ行
ヒ。速力ヲ十四海里ニ減シ。隊列ヲ整ヘテ敵ヲ追ヒ。次テ右八點ニ方向
ヲ變換シ。更ニ速力ヲ十二海里ニ減シ。本隊ノ進路ト直角ニ進ミ。之ト
十字放火ヲ爲シテ敵ノ右翼ヲ撃タント企テタリ。然レモ進テ彈丸ノ
達シ得ヘキ距離ニ至ル比。本隊既ニ敵ヲ左方ニ見テ通過セル後ニ屬
シ。少シク機ニ晚レタルノ感アリシト雖モ。本隊ト共ニ第四回ノ痛撃
ヲ加ヘタルヲ以テ。敵ノ陣列益々紊亂シ。其旗艦定遠ハ同三時十分頃。前
部ニ大火ヲ發シ。前檣頭モ亦折レ。將旗乃其中間ニ翻翻タリ。又致遠ハ
同三時三十分。終ニ右舷ニ傾キテ覆沒セリ。(第六圖參觀)